

通所介護事業所等の食堂兼機能訓練室の面積算定に係る判断基準

1 複数の部屋を連結した食堂兼機能訓練室について

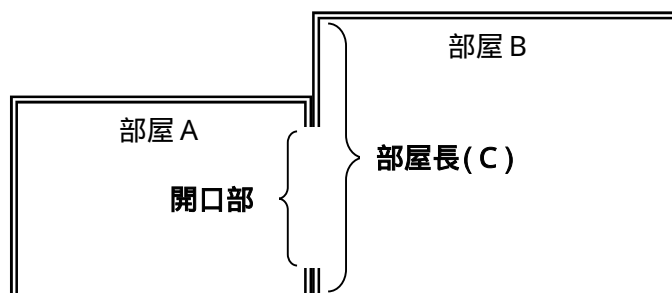
- (1) 部屋と部屋を接続する開口部の大きさが、接続している部屋の壁の長い方（内法）の 1/2 以上、かつ 1.7m以上ない場合は、別々の部屋として取り扱う。（別紙 - 1 参照）
- (2) 複数の部屋を一体的に使用する場合の接続は、3 部屋までとする。但し、見通しが極端に悪いなど、一体的に使用できないと判断される場合は 2 部屋までとする。
- (3) 縁側、サンルームは、部屋と段差なく続くスペースであって、開口部等を含め一体的に使用可能と判断される場合は、面積算入可能とする。

2 食堂兼機能訓練指導室の面積に算入できないスペースについて

- (1) 玄関、押入れ、床の間、廊下（通路）、階段、柱部分は面積に含めない。
玄関前が狭く（玄関がない場合を含む）、玄関の内側も含めないと玄関スペースとしての用途が満たせない場合は、「入口の幅×1m」の面積を除外する。（別紙 - 2 参照）
- (2) 専用のスペースとして認められない以下のスペースは、面積に含めない。
調理や手洗い等をする場合の可動域として、流し台、ガス台等の前面 80 cmを除外する。（別紙 - 3 参照）
別のサービスを併設する場合などで、兼用部分（相談室、事務室、厨房、トイレ等）や居室等に食堂兼機能訓練室を通らなければ行けないような場合は、通路（動線）として幅 1 mの通路面積を除外する。（別紙 - 4 参照）
- (3) 備品等の取扱いについて
面積算入可能
テーブル、椅子、ソファ、ピアノ、テレビ、カラオケセット、トレーニング器具などで機能訓練等のサービス提供に直接必要となる場合。
面積除外
棚、洗面台、利用者ロッカー、靴箱、食堂カウンター、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機などで機能訓練等のサービス提供に直接必要とならない場合。但し、サービス提供時に廊下等へ移動させるのであれば除外しない。
- (4) 食堂兼機能訓練室に続く三方を壁又は他の用途に使用する部屋等に接する狭隘なスペースは原則面積算入できない。但し、以下のとおり間口の寸法及び用途により算入可能な場合があることとする。また、奥行きについては間口の長さ分までを有効面積として算入できる。
算入不可
間口 1m以下のスペースについては面積に含めない。（別紙 - 5 参照）
用途により算入可能
間口 1mを超え、1.5m以下のスペースを算入しようとする場合は、その用途を確認し、機能訓練に資すると判断しうる場合に限り認める。（別紙 - 5 参照）

別 紙

1 複数の部屋を接続する場合（内規 - 1（1））

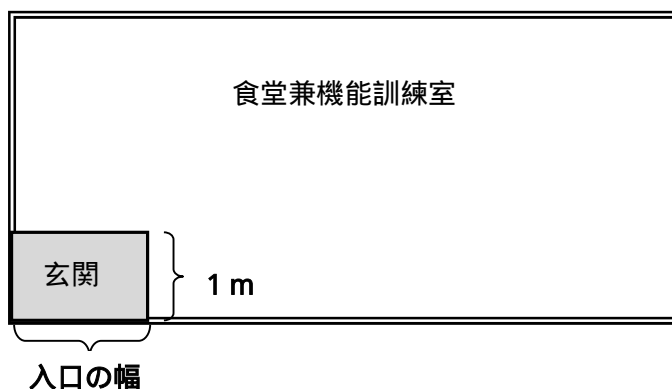


開口部の長さが、接続している部屋の壁の長い方（部屋長（C））の $1/2$ 以上、かつ 1.7 m 以上の長さが必要です。

【例 1】 部屋長（C）が 5.0 m の場合は、開口部は 2.5 m 以上が必要です。

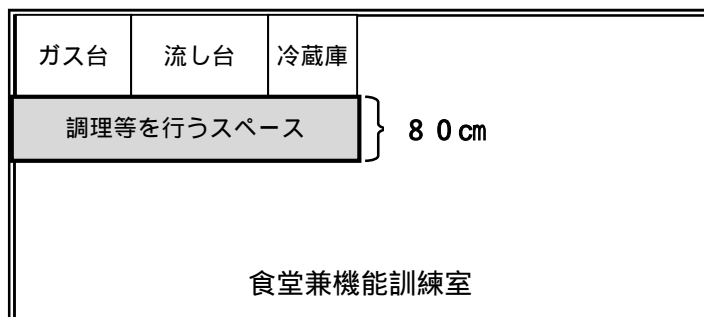
【例 2】 部屋長（C）が 3.0 m の場合は、開口部は 1.5 m 以上ではなく、 1.7 m 以上が必要です。

2 玄関スペースの面積除外（内規 - 2（1））



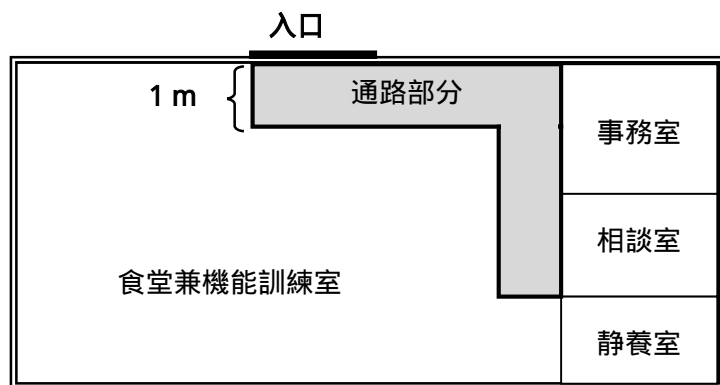
玄関の内側も含めないと玄関スペースとしての用途が満たせない場合は、「入口の幅 $\times 1\text{ m}$ 」の面積を除外する。

3 流し台、ガス台等の前面の面積除外（内規 - 2（2））



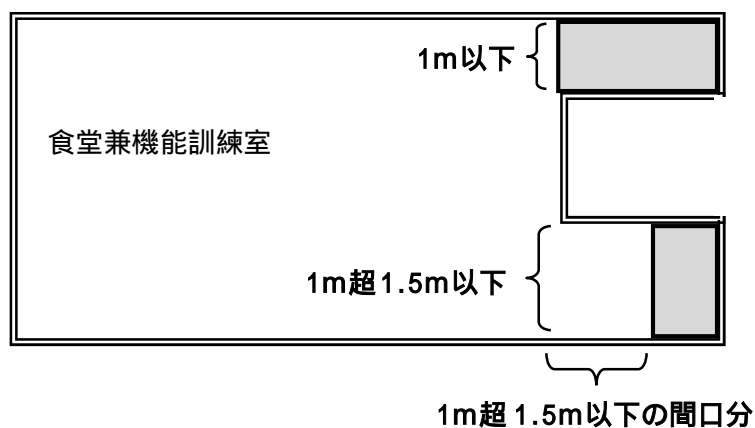
調理や手洗い等をする場合の可動域として、流し台、ガス台等の前面 80 cm の面積を除外する。

4 通路（動線）部分の面積除外（内規 - 2（2））



別のサービスを併設する場合などで、兼用部分（相談室、事務室、厨房、トイレ等）や居室等に食堂兼機能訓練室を通らなければ行けないような場合は、通路（動線）として幅1mの通路面積を除外する。

5 狭隘なスペースの面積除外（内規 - 2（4））



間口1m以下のスペース（ ）については面積を除外する。

間口1mを超え、1.5m以下のスペースを申し出る場合、その用途を確認し、機能訓練に資する有効な使用方法と判断しうる場合に限り認める。但し、奥行きは、間口の長さ分までを有効面積（ は面積を除外）として算入できる。